

2011

FIWC Philippine Camp Report



Philippine, Leyte, Matag-ob, Malazarte
February 21th-March 22th

2011 年春 FIWC 九州フィリピンキャンプ発行

目次

1. はじめに P2
2. FIWC とは P3
3. 重要人物紹介 P4~5
4. ワーク地、訪問地 P6~9
5. 日程 P10
6. ワーク報告 P11~20
7. 係報告
 - (1) KP P21~22
(Kitchen Police)
 - (2) イベント (文房具) . . . P23~29
 - (3) 会計 P30~31
 - (4) 保健 P32~33
 - (5) ホームステイ P34~35



8. 生活状況 P36~38
9. Tシャツ P39
10. 他己紹介 P40~45
11. 感想 P46~58

1. はじめに

約1年前、初めて参加したキャンプの感動が忘れられなかった3人でもう一度あの感動を味わいにいこうと決意した。

それから、キャンプのこと、FIWCのことすらほとんど知らない2人を加え下見キャンプへ。帰国後、別れもあったが新たに14人のメンバーと出会った。昨年の12人に比べてもかなりの大所帯。関東からの参加者もあり、事前MTGでも一度も全員が顔を合わせることもないままキャンプへ… 今回のキャンプテーマは

歩～ゆいまーる～ ～step together～

「ゆいまーる」とは沖縄の言葉で「助け合い」を意味します。このテーマには
「このキャンプが村とFIにとって将来につながる一歩となるように」
というキャンパーみんなの想いが込められています。

下見の前、当時のメンバー5人で考えたキャンプ像、村にとってもFIにとっても「将来性」のあるキャンプ、「人と人とのつながり」を大切にするキャンプ、に新たな14人の想いが加わってできあがりしました。

マラサルテ村はとても小さな山奥にある村でした。
インターネットもゲームもありますが、毎晩家族みんなでテレビを囲んでおしゃべりしたり、歌を歌いながら酒を飲んだり…

日本に比べ貧しく不便な生活だからこそ、そんな日常の何でもないことに大きな幸せを感じられました。また、小さな村だったこともあり、テーマ通りワークや日々の生活を通じて村人たちととても深い交流ができたと思います。ワークに関して村人のサポートなしではとても完成することはできませんでした。村人の家にホームステイしていたため、ワークが完成するにつれそこでの生活が便利になっていくのを村人と一緒に肌で感じる事ができたのは私たちにとっても格別の喜びとなりました。

今回のテーマ「歩」のようにこれからもこの村人とキャンパー間の「つながり」を断つことなく、共により良い将来をめざし、歩んでいきたいと思えます。

今まで私達を支えて下さったOB,OGの皆さん、マラサルテの村人たち、ロクロクさんをはじめとする現地で私達を支えてくれたたくさんの方々、そして何より私達をこのキャンプへ送り出してくれた保護者の皆様、本当にありがとうございました!!

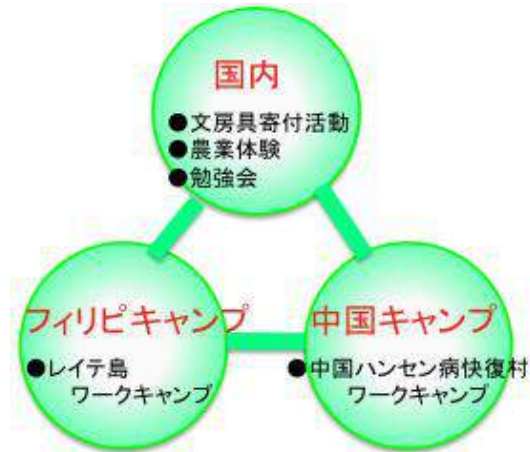
これからもこのキャンプが続いていくよう見守っていきたく思います。

最後に東日本大震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りします。また一刻も早い復興のため、自分たちもできることを探していきたいと思えます。

鹿島由紀

FIWC九州とは・・・

Friends International Work Camp



FIWC 九州は九州（主に福岡）の大学生が主体となり学生のみで国内外で国際協力活動を行っている学生 NGO 団体です。

国際活動

- 中国キャンプ
ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。
- フィリピンキャンプ
フィリピンレイテ島の貧困村を訪れ、インフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

国内活動

- FP(FIWC Party)
月1回第4土曜日にびおとーぷで行うワークショップ形式の勉強会。
- チーム★文房具
文房具寄付活動をきっかけに、日本の小中学生への開発教育や勉強会を行っている。
- 耶馬溪キャンプ
年3回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さが FIWC 九州の特徴です。
また、FIWC は九州の他、関東、関西、東海、広島に支部があり、互いに情報交換を行いながら、それぞれが自立した活動を行っています。

☆キャンプメンバーだけでなく国内活動にも一緒に参加してくれる大学生を募集中です!!

3. 重要人物紹介



ロクロクさん

1999年からFIWC 関東の活動に参加して下さっている現地のエンジニア。FIWC九州発足後は九州の活動をプロジェクトのみに関わらず、キャンプをさまざまな面からサポートしてくださっている。ワーク中は常にリーダーシップをとり、現場の指揮監督をしてくれた。言語の面でも村人と私たちを結ぶかけはしとなってくれ、何より一番に私たちの体調を気遣ってくれる、キャンプになくてはならないやさしいお父さんのような存在。



マラサルテ村の村長：レティ

今回のワーク地マラサルテ村の村長さん。普段は私たちの体調をいつも気遣ってくれ、夜10時の門限となるとメンバー全員の居場所に常に目を光らせる温かくてちょっと厳しいお母さん。だけど一度村長の顔に戻ると、素晴らしいリーダーシップで村人を率いる、頼れる村長さん。



マヌエルさん

ロクロクさんのアシスタントのエンジニア。今回のワークでは離れた場所で別の作業を同時進行する場面が多く、その時はマヌエルが一方の現場監督をすることでワークがとてもスムーズに行えた。ロクロクさんほど英語も得意ではなく、口数は少ないがいつもメンバー全員のことを見守ってくれている温かい人。仕事気あふれる姿は現地人からも慕われている。



ダディドドン&マミーサニー

2009年のワーク時にお世話になり、それから私たちの活動をサポートして下さっている元副マタグオブ市長夫婦。ダディは自称「フィリピンの父」!!今回は悪天候のため予定していたダディの家でのランチが全員では実現せず、全員で関わる時間があまりなかったのが残念だった。しかし、ビーチパーティーなどことあるごとに現れ!!私たちをサポートしてくれた。夏の下見キャンプの際は確実ににお世話になることが予想されるので載せておく。マミーのご飯は美味しいのでフィリピンに行く際はぜひお試しあれ♪もちろん大量のトゥバは避けては通れませんが…



実玲さん(通称 Merry)

昨年 11 月ごろから JICA の青年海外協力隊の派遣により、マタグオブ市の市役所に滞在している日本人。市役所近くの家でホームステイしており、これから 2 年間はマタグオブ市で貧困解消のための政策を市と共に行っていくそうだ。大学を卒業したばかりで歳も近く、実玲さんも久々の日本人に会えるのを楽しみにしていたようで、ワークに参加してくれたり、イベントに参加してくれたり仲良くしていただいた。また、ビサヤ語がかなり話せるようになっているので、これからのキャンプの際はいろいろとお世話になることが増えそうだ。



NorWeLeDePAI

(North Western Leyte Development Parent's Association Inc)

FIWC 九州と、2004 年の下見から協力体制をとっている現地の NGO 団体。FIWC 関東とも協力しており、フィリピンにおけるワークキャンプでは重要な存在である。この団体は、レイテ島北西部の村々で、子供たちの両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行っており、世界的な NGO である World Vision のドイツ支部から資金援助を受けている。

今回の村はノルウェルの支援地域でなかったこともあり直接的な協力体制はとっていないが、キャンプ中パスポートなどの貴重品を預かってもらうなどでお世話になった。

4. ワーク地、訪問地

Matag-ob

フィリピン南東の島、レイテ島の西側に位置する市。中心にはマーケットなど様々な店が立ち並んでいる。その一方で山間部に位置する村は水道や生活環境が整っていないところが多く、都市部との貧富の差が感じられる。

大都市からの交通の便もよく緊急性のあるニーズが多くあったため、2006年の夏から FIWC 九州の活動拠点とし、ワークはもちろん交流を行ってきた。今ではこの活動が着実に浸透しており、日本人への理解が深まっている。しかし、マタグオブ市ではニーズが高く、予算的にも可能なワークはこの数年で行っており、他のプロジェクト案は FI の関与できないものであったり、莫大な費用がかかったりして選択肢が狭まってきたことから、マタグオブ市の隣に位置するピラバ市への移動を視野に入れている。



Ormoc

レイテ島西側では一番栄えている港町。マタグオブ市からはバスで1時間の距離である。街中には大きなスーパーマーケットや病院、銀行、郵便局など必要なものはすべてそろっている。FIがキャンプごとにお世話になっている NorWeLeDePAI（ノルウェル）、現地 NGO のオフィスもオルモックにある。

Palompon

レイテ島西海岸の港町。オルモックよりは小さいがマタグオブの市場に比べると大きい中間程度の町。マラサルテ村はマタグオブ市の村の中でもパロンポンに近く、バスで1時間で着く距離なので買い物で行くこともあった。また、毎年キャンプ終盤、ビーチパーティーをピラバ市のビーチで行ってきたが、今回はパロンポンの方が近かったため初めてパロンポンビーチを利用した。



Cebu

先発隊は2月21日にセブに到着し、22日にビザの取得とセブ観光を行った。

セブ島 (Cebu Island) とは…フィリピン中部のヴィサヤ諸島にある島で、南北に 225km に渡って伸びる細長くて大きな島である。面積は 4422 平方 km。周囲はマクタン島、バンタヤン島、マラパスカ島、オランゴ島など小さな島々に囲まれている。東にカモテス海とカモテス諸島をはさんでレイテ島、ボホール海峡を挟んでボホール島、西にタノン海峡を挟んでネグロス島、南にシキホール島、北にヴィサヤン海を臨む。全島とその属島がセブ州で、島の東海岸中央部にある人口 72 万の州都セブ、マンダウエ市をはじめ 6 つの都市があり、マニラ首都圏 (メトロ・マニラ) に次ぐ大都市圏、メトロ・セブを形成している。州全体の人口は 3,356,137 人 (2000 年調査) で、うち 300 万人がセブ島に住んでいる。



2月21日

セブ到着。空港の敷地内にあるシランガンホテルに宿泊。



2月22日

ビザ取得のため、セブのフィリピン移民局へ。ビザ取得後、パークモールというショッピングモールへ徒歩で移動し買い物を楽しんだ。パークモールで昨年のワーク地で仲良くなった家族と合流し、セブ案内をしてもらった。サント・ニーニョ教会とガイサノへ行き、セブ観光を楽しんだ。



ビザ取得

フィリピンでは、入国管理法の規定により日本人は入国許可なしに入国でき、空港で21日間の滞在許可のビザが貰える。フィリピンに21日より長く滞在する予定の場合、日本のフィリピン大使館または現地のイミグレーションにて延長することができる。私たちがとったビザは観光ビザで、最寄りの入国管理局で入国ビザを38日間延長できる。今回のキャンプでは、先発隊、本隊ともにビザを取得した。

☆ビザ取得のために必要なもの

- ・パスポートのコピー
- ・現金（約3,000ペソ）

☆ビザ取得場所

Bureau of Immigration Cebu District Office
P. Burgos St. Tribunal Mandaue City 6014
Tel. NO.:032-345-6442 to 4



パークモール

イミグレーションから徒歩約10分の位置にある、ショッピングモール。建物はとても大きくきれいだった。このモールの中に入っている「Save More」というスーパーにて、これから一か月間必要になるであろう日用品を購入した。



名前	パークモール
エリア	マンダウエ
タイプ	モール
アクセス	マクタン セブ空港から車で 20 分。
アドレス	168 Ouano Avenue, Mandaue Reclamation Area, Mandaue City, Cebu
電話番号	(63-32) 2385412 / 2364147 / 3447817
ウェブサイト	http://www.parkmallph.com/index.html

サント・ニーニョ教会&マゼラン・クロス

サント・ニーニョ教会とマゼラン・クロスへは、パークモールからジープニーに乗って行った。ジープニーから降りてサント・ニーニョ教会とマゼラン・クロスへ行く途中、路上で多くの人が蝋燭を売っていた。この蝋燭を使ってお祈りをする。

☆サント・ニーニョ教会

サント・ニーニョ教会はセブ島の守護聖人の銅像が置かれている、フィリピン最古の教会。サント・ニーニョとは、幼少の頃のイエス・キリストのことである。この像は探検家・航海者であるマゼランがセブに到達したとき、島の王ラジャ・フマホンの妻に相互の同盟を記念して手渡されたものである。



住所：Osmena Blvd, 6000 Cebu City

電話番号：032-255-6697

☆マゼラン・クロス

建物八角堂の中にはマゼラン・クロスが飾られている。

フェルディナンド・マゼランとは、ポルトガルの航海者、探検家。南アメリカ大陸の南端を発見して、初めてヨーロッパから西回りで太平洋に到達し、途中フィリピンでラプラブ王との戦いにより 4 月 27 日に戦死したが、残された艦隊が史上初めての世界一周を達成した。



住所：Magallanes Street, Cebu City

5. 活動日程

● MTG スケジュール

12月 1日 第1回 MTG@あすみん	2月 11日～2月 12日 国内合宿
12月 18日 第2回 MTG@びおとーぷ	2月 21日 先発隊出発（30日間）
12月 26日 第3回 MTG@びおとーぷ	2月 28日 本隊出発（23日間）
1月 12日 第4回 MTG@あすみん	3月 22日 帰国
1月 16日 第5回 MTG@あすみん	3月 31日 第1回帰国後 MTG@びおとーぷ
1月 20日 第6回 MTG@あすみん	4月 8日 第2回帰国後 MTG@あすみん
2月 11日 第7回 MTG@今宿野外活動センター	4月 23日 報告会@びおとーぷ

● キャンプ活動スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
	21	22	23	24	25	26
	先発隊出発	VISA 取得(1) 観光@Cebu	村到着		表敬訪問(2) サントロサリオ 訪問(3)	Home Stay 調査(4)
★27	★28	★1	★2	★3	★4	5
GAM(5)	本隊出発 ワーク①	本隊到着 ワーク② Welcome Party	ワーク③	ワーク④	ワーク⑤ Home stay MTG(6)	Japanese Festival
★6	★7	★8	★9	★10	★11	12
	ワーク⑥	ワーク⑦	ワーク⑧ Home Stay 開始	ワーク⑨	ワーク⑩	
★13	★14	★15	16	17	★18	19
	ワーク⑪	ワーク⑫ ワーク終了			Beach Party	
★20	21	22	23	24	25	26
Farewell Party Home Stay 終了	出国	帰国				

★…ロクロクさんがマラサルテ村に滞在した日

- (1) 週間を超える滞在の場合（つまり先発のみ）は VISA の取得が必要。3000 ペソ程度
- (2) 表敬訪問…Matag-ob の市役所を訪問し、市長さんに挨拶したり警察署にパスポートのコピーを渡したりする
- (3) サントロサリオ…前回のワーク地
- (4) Home Stay 調査…キャンパーがホームステイするのにふさわしい家族選び
- (5) GAM(general assembly meeting)…通称ジェネアセ。村人に私達の活動について知ってもらい、承諾を得る場
- (6) Home stay MTG…ホームステイ先に選ばれた家族への説明会。同意書にサインをもらう

6. ワーク報告

●概要

場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市マラサルテ村

期間：2011年2月28日～3月15日(土日を除く)、3月20日

内容：Water System(水道設備)の改善

参加者：FIWC九州、現地エンジニア、村人

●ワーク内容詳細

I. ワーク地

村	マラサルテ	人口	337～400人(2010年調べ)
問題点	台風の影響で水源のタンクが崩壊し、ここ数年深刻な水不足に見舞われている。現在水を得るために村から離れた井戸に水を汲みにいったり、水を持っている家にもらいに行くなど不便な状況である。また、崩壊した水源のタンクの代用品としてポリタンクを使用しているので水質が悪く腹痛を訴える村人が多数いる。		
場所と移動手段(距離、時間)	市の中心にあるマーケットまで、バイクで30～40分ほどかかる。		
備考	村が市の中心から離れて山奥にあることもあり、村は他に比べて貧しい。		

II. ワーク概要

今回のワークでは水不足であった、村の Water System の改善を行った。

この村の水不足の原因は主に2つであった。

- Water Source(水源)のタンクの破損(ポリタンクで代用)
- Water Source(水源)から BRGY(村)までのパイプが細い

この問題を解決するために、大きく分けて以下の3つの作業を行った。

- Water Source(水源)のタンクの作成
- Water Source(水源)から BRGY(村)までのパイプを太いものに変更
- BRGY(村)に増えた水量を貯水するためのタンクの作成

ここまでの FIWC九州が予定していたワークであったが、時間的余裕と村側が余分に資材を購入しており、新たに下記の村役員が提案したワークを追加することとなった。

- 公共の水汲みタンクを2つ作成(お風呂や洗濯時に使用する)
- 水汲みタンクをサポートする小さいタンクの作成
- 村の中で使われているパイプを太いものに変更

また、下記の 1 つは村役員からの提案にはなかったが、FIWC が必要と判断し、村長に提案したワークである。

- 綺麗な水を得ることができない地域にパイプを繋ぎ、飲み水専用の蛇口を作成

※この 4 つの追加分のワークに関して、FIWC 九州は金銭的サポートを行っていない。

【人員】

FIWC 九州：18 名、村人：15 人程度(ワークによって変動)、エンジニア：2 名

【スケジュール】

8:00	Work Start(Dong*2 家前集合)
8:00~12:00	午前中のワーク
12:00 ~ 13:00(or 13:30)	昼食を含んだ休憩
13:00~16:00	午後のワーク

※日によってワークの量やそれによる疲労度が大きく異なるため、状況に合わせて休憩の時間、終了時刻は前後させた。



Ⅲ. ワークの手法

【水源タンク】

1 次的に水源の湧水を蓄えるタンクのこと。

これを作ることによって村に安定した水量を送ることができる。

また以前はこれが壊れておりポリタンクで代用し、竹をパイプ代わりに使っていたため水質が悪かった。今回のワークで水質向上もできた。



- ① 土台となる部分に穴を掘る。昔あったタンクは土砂崩れで流された。その対策として長方形型のタンクを作るため、穴は写真のような形に掘っている。



- ② 外枠を 2 重構造で木の板で作り、枠の間と底面にセメントを流し込む。このときに、パイプを通すための穴をあけておく。枠の間と底面には強度増加のため、鉄の棒で基礎を作る。底面には大きめの岩もいれている。流し込んだセメントの分量は以下の通り。

セメント	石	砂	サハラ
1	2	3	1(袋)

※サハラ：防水性の粉のこと。

これを使用することで水漏れを防ぐことができる。



- ③ 湧水が出ているところは写真のように岩を置き、その上部に木の板を挟み、セメントを流し込むことでタンクの内部に湧水を溜めることができるようになっている。



- ④ タンク上部のカバーは、木の板と鉄の棒で基礎を作り、その上からセメントを流し込む。このとき、タンクの蓋の部分にセメントが流れ込まないように別に木の枠を作成した。
使用したセメントの分量は以下の通り。

セメント	石	砂	サハラ
1	3	3	0



- ⑤ 最後に土砂崩れでタンクが流れていくことを防止するために、タンクの左右を岩、砂、セメントによって地盤に固定する作業を行った。



今回の水源タンクを作るワークはワーク地が非常に山奥であったため、資材運びが特に労力を使った。しかし、キャンパーの人数、村人が協力的であったことでその資材運びが非常にスムーズに進んだことで特にワークの予定に支障はなかった。



【貯水タンク】

水源タンクからの水を1次的に村に蓄えておくためのタンク。

村は以前から大きめの取水タンクを1つ持っていた。しかし今回、水源タンクを作り、パイプを大きいものに変更したことによって以前より遙かに多くの水量を得ることができた。この量は1つの貯水タンクでは有り余る量であるため、もう1つ貯水タンクを作る必要があった。

- ① 土台作成のために穴を掘り、そこに石を敷き詰め、鉄の棒で基礎を作る。



- ② ブロックの間にセメントを詰め込みながらブロックを積み上げ、底面にはセメントを流し込む。
ブロックの間に使用したセメントの分量は以下の通り。
()の分量は底面に流し込んだセメントの分量。

セメント	石	砂	サハラ
1	2(3)	4(3)	0



- ③ ブロックを積み終わったら内側からセメントを塗っていく。(フィニッシング作業)
使用したセメントの分量は以下の通り。

セメント	石	砂	サハラ
1	0	2	1.5

ここで使用した砂は細かい砂利をスクリーンと呼ばれる作業で取り除いたもの。(写真参照)



- ④ タンク上部のカバーは、木の板と鉄の棒で基礎を作り、その上からセメントを流し込む。このとき、タンクの蓋の部分にセメントが流れ込まないように別に木の枠を作成した。使用したセメントの分量は以下の通り。

セメント	石	砂	サハラ
1	3	3	0



- ⑤ 内側と同様に外側もフィニッシング作業を行い完成。思い出としてワークに関わった村人とキャンパーの名前をタンクに彫った。



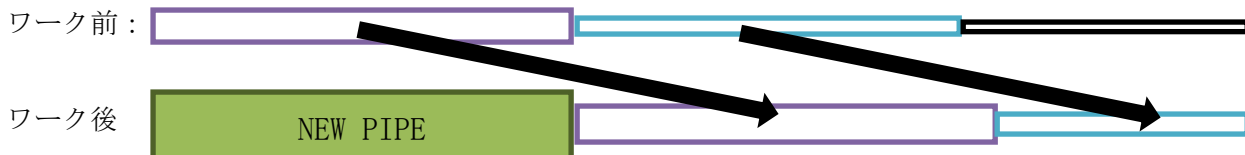
貯水タンクは村に作るため、資材の移動がほとんどなくさほど労働力を必要としなかった。また、村長の家も近く、体力的にきつくなった人はすぐに休める環境が整っていたのは良かった。キャンパーの人数が多かったためか、全員ががっつりと仕事をできるわけではなかったが、その分村人との交流も多く行え、また仕事量から体調を崩す人が少なかった。タンクに刻んだみんなの名前、それを見て私たちと過ごした日々を思い出してくれればと思う。



【パイプの繋ぎ方】

繋ぎ目は大ききの異なるパイプを用いて中継し、隙間をゴムで巻き補強する。

以前村の所有していたパイプは大ききが小さいものであったため、村へ送る水の量が少なかつた。今回のワークでは以前のものを取り外しそこに新たに購入したパイプを繋いだ。新しいパイプの後には以前使用していたものでもサイズが大きいものを繋いだ。



【追加のワーク】

① オープンタンク*2

村人が普段の生活で洗濯や水浴びをする際に使用する。村人が誰でも使えるように公共物として作った。また、今回のワークで出来た水源のタンクから水がきているので、綺麗な水であり、以前とは違い飲み水としても利用できる。場所は、村の中心部と村の入り口付近の住宅密集地に作った。



② 小貯水タンク

追加ワークで作ったオープンタンクをサポートするものとして作った。今回のワークで作った大きな貯水タンクから水をひいている。

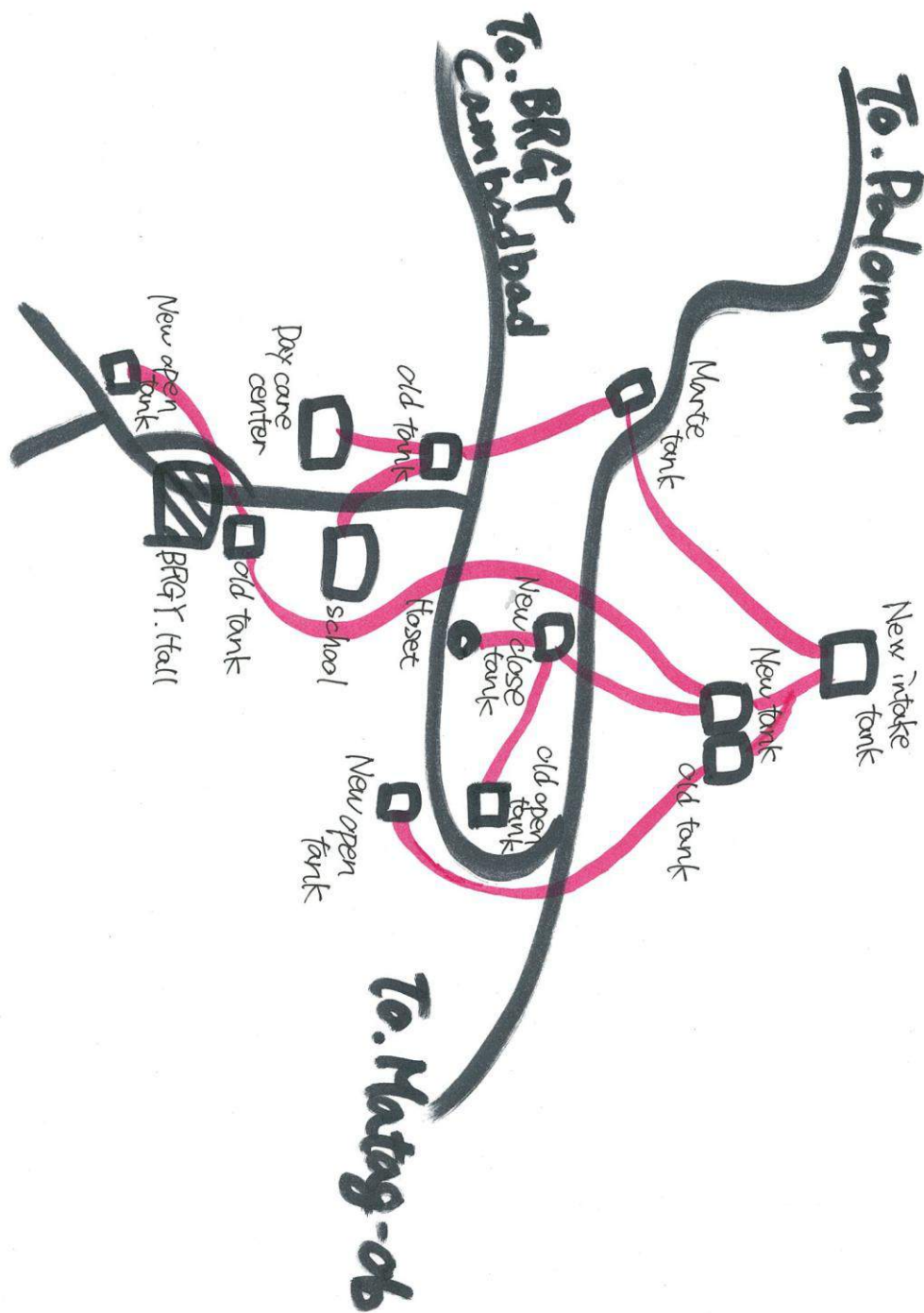


③ 蛇口

村役員からの要求はなかったが、今回のワークにおいて特に変化がなかった地域があった。FIWCが独自にその地域の村人と話を聞き、飲み水として利用できる綺麗な水が必要であることがわかり、作った貯水タンクからパイプを繋いだ。



IV. ワーク地のタンクとパイプ接続図



V. ワーク進行状況

	水源タンク	貯水タンク	パイプ	追加のワーク
2月28日(月)	資材運び 基礎部分ほぼ完成			
3月1日(火)	資材運び セメント流し込み			
2日(水)		基礎作り ブロック積み		
3日(木)		内、底面のフイニッシング	パイプ伸ばし	
4日(金)	資材運び カバー作り	資材運び カバー作り		
7日(月)	カバー木枠外し 滑り防止作成	カバー木枠外し	パイプ接続	
8日(火)		内側フイニッシング 内部清掃	昔のパイプ取外し、接続	砂の確保
9日(水)			パイプ亀裂修繕、接続	小貯水タンク作成
10日(木)			パイプ接続	砂の確保、小貯水タンクフイニッシング 1つ目のオープンタンク完成
11日(金)	外側フイニッシング		パイプチェック	小タンクカバー作成
14日(月)				2つ目のオープンタンクの基礎作り
15日(火)			パイプチェック	砂の確保 2つ目のオープンタンク完成
20日(日)				村の中のパイプ、蛇口繋ぎ

●結果

今回のワークでは、村人が大変協力的であったこと、そしてスケジュールがしっかりと
なされていたことから予定以上のワークを行うことができた。当初予定していたワークが
完了した時点で村は以前より約 2 倍近くの水量を得ることができ、水質も向上している。
また、追加分のワークによって村人の普段の生活が楽になった。

しかし、普段は乾季であるはずの季節だったが、異常気象により毎日雨が降り続いたこ
とから普段の状況とは異なっている。例年通りの乾季のときに、どれだけの水量が村に届
くかが重要である。よって、乾季に入ったらロクロクがモニタリングとして村の水状況を
調査してくれることを約束した。

●費用（予算と現状）

FIWC	P75000	➡	FIWC	P77089
BRGY	P40000		BRGY	(約)P43000

※石油の高騰のため、資材を運ぶガソリン代が予算より多少高くなってしまったためこの
ような結果となっています。

●給料

エンジニアであるロクロクと、そのサポートにあたってくれたマニユエルに対して、その
間に普段の仕事ができないことから幾らかのお金を支払った。ロクロクには FIWC から感
謝料という形で、マニユエルには FIWC と BRGY で分担して給料という形で支払った。
また、ロクロクには FIWC が帰国後のモニタリングをしてくれるということで、その交通
費などを含め追加でお金を渡した。

ロクロク	P7000(うち P1000 はモニタリング分)
マニユ エル	P5000(内訳 FIWC : P3000、BRGY : P2000)

7. 係報告

(1) KP(Kitchen Police)

◎KP の仕事内容

- ・ 食事と洗濯のシフト表の作成

今回のキャンプでは共同生活中は、基本的に食事は3人、洗濯は5人の体制で作成した。

- ・ シフト表の管理

ミーティングの最後に次の日の食事・洗濯の担当を発表していた。

- ・ Farewell Party で出す料理の食材の入手

日本から持っていかなければならないものを事前に購入し、フィリピンに持って行った。

◎食事に関して



【共同生活中】

朝、昼、晩、すべての食事が共同生活をしている家でふるまわれた。ワーク地が家から遠い場合は、ワーク地に現地の人たちが料理を持ってきてくれ、そこで昼をすませた。

料理は村のナナイが交代制で作ってくれ、量はほぼ無限大でいくらおかわりしてもなくならなかった。

料理の種類は米と別におかずが2種類前後毎回用意

され、野菜や魚、肉とバラエティーにも富んでいてなにも不自由することはなかった。正直一人暮らしで食べるものよりも充実していた。

料理に使われる食材は、2日に一度村の人が車をだしてくれ、マーケットと呼ばれる食材を売っている店が集まっているところで購入した。マーケットに行くのはその日の食事担当だった。

【ホームステイ中】

各家庭に食材を購入し分配するといった方式になった。この時マーケットに行くのは、共同生活中と同様にシフトで食事に割り当てられている人だったが、買い物から戻ってきてから買ってきた人が、自分のホームステイ先の近くのキャンパーの家にもって行くようにしていた。

そのため、ホームステイ中のシフトは基本的に Proper 2人 Bongbong 2人で組むようにしていた。



◎洗濯に関して

洗濯はすべて手洗いで行った。方法としては——タライを4つ程準備し1つ目のタライで泥などの大きい汚れをおとし、2つ目のタライでは洗剤を入れて汚れをしっかりと洗う。3、4つ目のタライでは水ですすいで洗剤をおとし、絞って干す——というのが大体の工程である。すべての工程である程度洗濯物を絞るのでジャージやジーパンなどの大きな衣類やかたい衣類は大変だった。

キャンプ中雨が多かったので普通の生地の服では乾かないことが多く、スポーツ用の服によくある速乾性の服や、インナーなどが乾きやすいため非常に有効であると思われた。洗剤のせいで手荒れが起きた人もすこし見られた。タライも洗濯物を干すところも村人から借りていた。



◎反省

- ・ホームステイが始まってからの食料配分は、男女の数や家の貧富に応じて変えるべきであった。ホームステイが男二人組のところでは分配した2日分の食料が1日でなくなったり、逆に女2人組のところでは食料が余ったりという問題が発生した。
- ・会計と KP 会計を分けるべきであった（会計が大変だった）。金銭の収支はすべて会計に任せていたが、会計が扱う内容としては食事以外にも色々あるので、負担が大きすぎた。食事に関する会計は KP がする方が良かったらう。
- ・シフトに偏りがあった。洗濯と食事を担当した数に偏りが生じてしまった原因としては食事は男1人、洗濯は男2人と決めてしまっていたことと、リーダー、副リーダー、ワークリーダーの負担軽減の為に極力シフトに組み込まなかったことの2つが挙げられる。対策として、別に洗濯だから男が多い方が良いということもなかったもので、シフトの男女比にはこだわらないことと、負担軽減とか気にしないでやりたいんだから組込め！！の2つが挙げられる。
- ・ミネラルウォーターの管理をしていなかった。ミネラルウォーターの管理は KP の仕事なのにほったらかしにしてしまった。係の仕事として割り振られているのだから、強い意識を持って取り組まなければならなかった。ごめんなさい。
- ・Farewell Party の時料理を放置していた。Farewell Party の時に食事が出されていたのにそれらを放置して、ずっと村人と遊んでしまっていた。準備、配膳、片付け、すべてを村人に任せていたが、Farewell Party は村人とキャンパーが主役なのだから、料理に関してもキャンパーを代表して KP が手伝うべきであったと思う。

(2) イベント (文房具)

①Welcome party

日時 3月1日(火) 21:00~24:00 @BRGYホール

本隊が村に到着した日の夜、村人達が Welcome party を開いてくれた。PM7:00 開始の予定だったが大幅に遅れた。村人はダンス等で歓迎してくれ、FI はメンバー全員でソーラン節を披露した。練習は出発前の総会で行ない、Welcome party 開始前にも練習した。日本で購入したハッピを着て踊った。

<反省>

- ・ ソーラン節の練習不足、配置をもっと練ればよかった。
- ・ ハッピは現地の人にも喜んでくれて良かったが、ハッピの忘れ物があったので名前を書いておくべきだった。



②Japanese Festival

日時 3月5日(土) @BRGYホール

10:00~12:00 a)日本語教室

12:00~14:00 休憩 (☆団子)

14:00~16:00 b)習字 c)お絵描き d)あやとり e)大縄 f)腕相撲大会

今年のキャンプでは、昨年の青空教室を別日程では行なわずジャパニーズフェスティバルの一環として日本語教室を行なった。午前中は日本語教室、午後は b)習字 c)お絵描き d)あやとり e)大縄 の4つに分かれて活動した。その後は全体で f)腕相撲大会 を開催した。なお、日本語教室の後にはスナックとして団子を振る舞った。イベントにはプロパーの子供を中心に約40人の村人が集まった。また、音響はカピタンのものを借りた。

a)日本語教室

- 簡単な挨拶や日常的な単語を教えた。(おはよう、ありがとう等)
- 教える言葉を書いて見せる紙は去年のものを利用し、足りないものだけ作った。
- 3つのグループに分かれて教えた。
- TEAM★文房具の活動で集めたノートと鉛筆を利用し、使用後は持って帰ってもらった。

<反省>

- ・ 3つのグループをそれぞれどこでするか事前にしっかり決めておらず、最初の準備にてこずった。
- ・ 教える言葉は約10個用意していたが早く進み、用意していない言葉も教えることができた。教える言葉をもっと用意していてもよかった。



b)習字

使用した物

- ・ 半紙 300枚 (100枚余り)
- ・ 筆 14本
- ・ 墨汁 3本
- ・ 新聞紙
- ・ スズリ (ココナッツの殻)
- ・ 机 4台

<反省>

- ・ 筆が足りなかった。
- ・ 書き終わった半紙をおく場所がなかった。
- ・ 習字のみ室内で実施したため、他の活動と連絡があまりとれていなかった。
- ・ 習字は人気があり、盛り上がった。



c)お絵描き

大きな紙に事前にクレヨンで木を描き、そこに手形を押してもらって葉を表そうとした。木ではなくなったが、素敵な絵ができ BRGY ホールに飾った。

使用した物

- ・ 絵の具 (TEAM★文房具で集めたもの)
- ・ クレヨン (TEAM★文房具で集めたもの)
- ・ 新聞紙
- ・ 白画用紙
- ・ テープ
- ・ パレット (大きな葉)



<反省>

- ・ 絵の具は約4箱持っていったが1箱しか使わなかった。→絵の具とクレヨンは使う色だけ持っていけば良かった。
- ・ 厚紙を近くのマーケットで買えなかったため、キャンペーが持参していた画用紙をもらいテープでつなげて1枚の大きな紙にした。→絵の具で書いても大丈夫な厚紙を日本から持っていくべきだった。
- ・ 新聞紙が足りず、ステージの床を汚してしまった。
- ・ ステージという場所もよく、盛り上がった。

d)あやとり

使用した物

- ・ 毛糸
- ・ やり方を印刷した紙 (約5枚)

<反省>

- ・ あまり人が来なかった。
- ・ 言葉が通じず見せながらだったのでうまく教えられなかった。



e)大縄

使用した物

- ・ 縄 (5m)

<反省>

- ・ 参加者が少なく1時間半は長かったので、ずっとするより他のものもかんがえればよかった。



f)腕相撲大会

15:30 でそれぞれの活動を終わらせて、全体で腕相撲大会を行なった。参加者は男女各 16 名で、優勝者には FI メンバー全員の集合写真を現地で購入した写真たてにに入れて贈呈した。



使用した物

- ・机 2つ
- ・模造紙 (トーナメント表)

<反省>

・現地人の参加者がなかなか集まらず、16人の中にはキャンパーもかなり含まれていたが盛り上がり良かった。

☆団子

使用した物

- ・ 団子粉 (200 個分)
- ・ きな粉
- ・ 醤油
- ・ 片栗粉
- ・ 日本酒 (みりんの代用)
- ・ チョコレートシロップ
- ・ 砂糖

※砂糖以外は日本で購入して持って行った。

<反省>

- ・ 昨年の反省を生かして今回は日本の醤油を持って行った。
- ・ みたらしはとてもおいしく大人気だった。
- ・ きな粉は味をしょっぱくしてしまったが喜んでくれた。
- ・ チョコレートは団子とあまり合わなかったなので、量を少なくした。
- ・ 現地の人たちはとても喜んでくれたので、もっとたくさん作っても良かった。



<Japanese Festival 全体の反省>

- ・ 宣伝不足だった。大人が少なく子供が多かった。また、ボンボンからの参加者が少なかった。
- ・ 開始、終了にメリハリがなかった。
- ・ 点呼のし忘れで、午後開始に遅れたキャンパーがいた。
- ・ 回収し忘れたポスターがあった。
- ・ 天候に左右されながらもキャンパー全員のおかげで、良いイベントができた。

③ビーチパーティー

日時 3月18日(金)

目的 村人たちと楽しみ、ワークの労をねぎらうため。

マラサルテから車で約1時間のところにあるパロンポンのビーチに行った。村のナナイ達が食事を用意してくれ、ビーチで食べた。海で泳いだり砂浜で遊んだりして楽しんだ。すいか割り(すいか2つ)も盛り上がった。

<反省>

- ・ ゲームなどイベント係で企画すればよかった。



④ Farewell party

日時 3月20日(日) 18:00~1:00

キャンプ最終日にお別れ会としてパーティーを村人が開いてくれた。村人からの出し物としてダンス等があり、私たちはソーラン節を披露した。私たちのワークでの貢献を称えて賞状もいただいた。プログラム終了後は遅くまで音楽にのってみんなで踊り騒いだ。

<反省>

- ・ ソーラン節は前日に数回練習した程度だったが大丈夫だった。
- ・ Farewell party でもイベントで企画すればよかった。



文房具寄付活動

今回のキャンプでは、2009 年度から始まった「文房具集め隊★」（現 TEAM★文房具）の活動（日本の小中学校、個人からの寄付により収集した文房具を現地の子どもたちへ寄付する活動。詳しくは活動ブログ <http://fiwcqbnbg.exblog.jp/>参照）によって集められた文房具を、Japanese Festival 内の日本語教室、お絵描きに使用した。

【日本語教室】

参加者のメモ用紙として、日本で集めたノートを切り離したものを一人 1 枚ずつ配布した。参加した村の子どもたちに、中古の鉛筆を一人 2 本ずつ（計 94 本）配布し、日本語教室後にそのまま寄付した。

日本語教室の開始前に、鉛筆を大切に扱ってもらえるよう鉛筆がどこから集められたか、寄付した側の学生の思いなどを説明した。



【お絵描き】

文房具集め隊★で集められた絵の具を使って、大きな 1 枚の絵を描いた。完成した絵は BRGY ホールの壁に飾った。



(3) 会計

仕事内容

金銭の徴収・管理、毎日の収支記帳
見積りの算出



反省

今回会計を2人で行ったが、去年のようにワーク費と生活費をそれぞれが別々で管理するという体制は取らなかった。特に大きな問題はなかったが、最後の最後で見積りがくずれ、足りなくなった生活費をワーク費の余りからまかなった。

[料金の目安]

●宿泊費

シランガンホテル (セブ島) ※エアコン付き

シングルベッド 675 p / 部屋、泊

ダブルベッド 875 p / 部屋、泊

●交通費

・バン

(シランガン→Supercat 乗り場) 850 p / 台

(シランガン→イミグレーション) 800 p / 台

・船

Supercat (セブ→オルモック) 700p/人 (Terminal Fee 含)

・バス

(マラサルテ→マタグオブ) 15 p / 人

(マタグオブ→オルモック) 40 p / 人

(マラサルテ→オルモック) 50 p / 人

・ハバルハバル、トライシクル

(サントロサリオ→マタグオブ) 10 p / 人

●レート

2011. 2. 21~3. 21 5,000~5,120 ペソ/10,000 円

[旅費総額]

航空券代	59,320 円
生活費	10,000 円
ワーク費	10,000 円
キャンプ参加費	500 円
+) 保険代	約 6,000 円
計	約 85,820 円

収入		
徴収金	生活費	91,560
	ワーク費	92,160
その他・雑益		980
合計		184,700

(単位：ペソ)

支出 (ワーク費)			
ワーク費	資材		75,572
	感謝料	Loklok さん	8,100
		Manuel さん	3,000
合計			86,672

(単位：ペソ)

支出 (生活費)		
宿泊費	セブ島シランガン	7,275
食費	水	2,870
	食料	20,422
小計		23,292
携帯	ロード	5,400
交通費	バン	4,400
	ジープニー	630
	SuperCat	28,000
	トライシクル	155
	リバティー	1,070
	ガソリン	2,500
	タクシー	750
	その他	810
小計		38,315
Tシャツ	服代	1,995
	印刷代	3,150
小計		5,145
生活	雑費	2,865
イベント	ビーチパーティ	3,000
	フェアウェル	7,000
	他	1,654
	小計	11,654
合計		93,346

収支

184,700-86,672-93,346=4,082 ペソ

(単位：ペソ)

(4) 保健

☆ORMOC の病院に行った人、MATAG-OB の診療所に行った人

キャンパー	症状	病院の対処・飲んだ薬	治療費
みお	腹痛、下痢	診察、検尿を受けて下痢止めと痛み止めの薬を飲んだ	741ペソ
いっこ	足の裏の怪我、股関節のリンパ腺の痛み	患部の消毒、痛み止めの処方	診療所のため0
いっこ	腹痛、下痢	検査の結果ウイルス性腸炎であることが判明。日本の医療機関への紹介文を書いてくれた。	約2500ペソ
まさえ	下痢、発熱、頭痛、腹痛	問診を受けて、解熱剤や腹痛の鎮痛剤、下痢止め、殺菌剤を飲んだ	診療所のため0

☆保健バッグで使用頻度が高かったもの

【絆創膏・ガーゼ・マキロン】

→ワーク中の怪我、虫さされによる傷に使用。

【風邪薬・マスク・正露丸】

→風邪をひいた人、おなかをこわす人が多くいた。

【ムヒ・OFF!】

→虫さされ予防には現地の OFF! (現地購入)、虫にさされたときはムヒを使用。



☆現在の保健バッグの中身

- ・ 黄色のひよこバッグ

オキシドール、マキロン、ムヒ、ムヒパッチ、ムルコス、OFF!、虫除けウェットシート、酔い止め、爪切り、体温計、ガーゼ、包帯

※ ムヒパッチ、ムルコスは虫さされに使用するもの。

- ・ 茶色の地図が書いてあるバッグの中身

オキシドール、包帯、太田胃散、ガーゼ、絆創膏、はさみ

☆保健バッグに増やすべきもの

絆創膏、ガーゼ	一度けがをしたらかなりの枚数を使うので、大量に持って行くべき！
包帯	いま保健バッグにある分は少なく使い捨てなので増やすべき！
湿布	足や手を痛める人がいるので新しく増やすと良い！
テーピング	捻挫したときの固定用に必要！
解熱剤、冷えピタ	熱を出す人が多くいたので必要！
風邪薬	一度風邪を引くと結構な量が服用するので多めに必要！
マスク	風邪を引いた人、またセメントを吸い込まないために必要！
救急本	簡単な応急処置の方法がのったものを用意すべき！

☆ 保健係の反省

- ・ 事前に保健バッグの中身を話し合い、充実させるべきだった。
- ・ 水の回し飲みや、古い水に新しい水をつぎ足して飲んでいたため風邪がはやってしまった。ワーク中以外の回し飲みを避け、ペットボトルを小さいものにし、こまめに洗う必要がある。
- ・ 保健バッグがよく放置されてしまった。保健係が常に管理し、保健グッズを使うときは保健係に言うようにするとよかった。
- ・ ホームステイが始まってから PROPER と BONGBONG が遠かったのに、BONGBONG に二つの保健バッグが置かれたままだった。2カ所に分けておくと良かった。その際、風邪薬を小分けにする袋があるといいと思う。



☆ 来年に向けてすべきこと

- ・ 事前に保健バッグの中身を確認し、充実させる。保健グッズリストを作る。
- ・ リストに沿って保健グッズのチェックをする。
- ・ 怪我や病気になった人がいれば、症状を聞き必ずメモする。
- ・ ワーク中に特に必要なものをひとつのかばんにまとめる。

(5) ホームステイ

【期間】

3月9日～3月20日

【選出方法】

村長が候補として挙げた11軒の家を、村長からの情報とあわせて失礼でないように家の外から検証した。村長が挙げた家はワーク地にも近い sitio Bongbong のみだったが、FIからの要望で15分程でこぼこ道を歩いたところにある Proper 地区の家も数件加えてもらった。検証点としては、村役人であるか否か、英語が話せるか否か、子供の数やCR（トイレ）の有無の4点、最低限にとどめた。その中から各自第三希望まで滞在したい家を書いて提出してもらい、ホームステイ係が18人のキャンパーを2名ずつ9軒に振り分けた。

3月4日にホームステイミーティングを開き、リーダーとホームステイ係が村長と9軒のホストファミリーへ NorWeLeDePAI の作成した規約書と FIからの要望についての説明を行った。

以下に示すのが、NorWeLeDePAI がホームステイ先に要求した規約書の内容である。

- 1、 キャンパーに対して家族と同じ扱いをすること。特別な待遇や準備は必要ない。
- 2、 キャンパーのプライバシーを守ること。特にマリーゴ（水浴び）をする時と就寝時。
- 3、 ホストファミリーと一緒にいる時は、キャンパーのセキュリティーに気をつけること。キャンパーは自分と持ち物を守るようにするが、ホームステイ先にも出来る限り気をつけてほしい。

最後にこれにホストファミリーとその家族に滞在するキャンパーが書名した。

【ホームステイ中のスケジュール】*一例

～7:50 起床、水浴び、各家庭で朝食

8:00 ワーク開始

12:00 昼食 *村人も一緒に全員で

13:00 ワーク再開

16:00 ワーク終了、ミーティング

17:00 フリータイム、各家庭で夕食

※ ホームステイ中は2日に一回、全体で約1200ペソ分の食材等をまとめて買い、それを9軒に分け、各ステイ先に渡す仕組みにしていた。生活用品（トイレットペーパーや洗剤）はホームステイの初日に分けあって各自ステイ先に持っていった。

【メンバー振り分け】

だいき みお	むっきー えりかろ	ふうか ゆうか	ゆき はるか	かーりー りょうへい
あっこ みほ	りま ちゃん	たかし まつじゅん	いっこ まさえ	

【反省】

○良かった点

- ・ 村長、ホストファミリーとミーティングを開き、規約や要望について説明することが出来た。
- ・ どのホストファミリーも親切で、快適に過ごせた。



●悪かった点

- ・ 候補の家を検証する際、家庭側に男女両方のステイが可能かどうかをチェック項目に入れてなかった為、キャンパーを2名ずつ9軒に振り分けた後で一部の家庭から男の子の受け入れが出来ないという申し出があった。
→検証の際には各家庭に男女どちらでもステイが可能かどうかは確かめておく必要があった。
- ・ 今回は候補の家庭になるべく失礼にならないように検証した為、CR（トイレ）の外観等はチェックせずに、CR（トイレ）の有無だけを聞くにとどまった。
→ステイを始めて実際にCRの無い家庭や、CRがあっても外から見える家庭もあった為、検証時にCRは実際に見ておくべきであった。

【総括】

フィリピンでの1ヶ月の生活の後半をホームステイ先で過ごし、現地の人々と密接な環境の中で異文化に触れ、キャンパーはそれぞれ多くの経験が出来た。日本の家族の他に、もう一つの家族ができ、村を離れる時には多くのホストファミリーが泣きながら私たちを見送ってくれた。大きな問題もなくホームステイを終えることができて良かった。

8. 生活状況

衣

フィリピンはこの時期乾季なので、毎日暑く最高気温が 30℃を超えるような日がほとんどである。しかし、異常気象なのかキャンプ中の半分が雨で洗濯物が乾かない、くさいという事態発生！そこはおいといて、通常Tシャツに半ズボン、そしてサンダルなどかなりラフな格好で生活していた。ただ、朝と夜に冷え込むので、羽織るものが必要。今回の村は山の上にあったため、予想以上に寒暖差があつて、体調を崩すメンバーもいた。蚊への対策としても長袖と長ズボンは使えるので何枚かあるとすごくよい。あとは帽子もあった方がよい。クロックスのほかTシャツやズボンなど大抵の衣服は現地でも調達でき、日本と比べ格安で購入できるので、途中で服を買い足すメンバーもいた。

食

フィリピンの料理は、豚肉や鶏肉や魚を使ったものが中心で醤油や塩で味付けしたものが多く、わりと日本人の味覚に合うもの。主食が米でおかずが 1~3 品という献立が多かった。村は山の上にあるが、魚をバイクで売りにきていたので魚を使った料理が多かった。野菜も十分にとることができ、マンゴーやバナナ、パイナップルなど亜熱帯のフルーツは格別だった。基本的に食事のときはコーラか水。お腹を壊す可能性があるので生水は避け、必ずミネラルウォーターを飲むようにしていた。今回メンバーが 18 名もいたのでFI専用のタンクを常に4つストックしていた。



住

マラサルテ村での共同生活の最初の 1 週間は前カピタンの家に先発メンバーみんな泊めてもらっていたが、本隊が到着して 1 週間は男がロクロクさん達と共に前カピタン家の近くの家に移動して、男女分かれて生活した。共同生活中はベッドもあったが、皆が寝られるわけがないのでゴザをしいて床に寝ていた。ホームステイが始まってからは家によって部屋を与えられたり、リビングで寝たり、様々であった。また、トイレのない家もあり近くの家のトイレを借りることも。



〔風呂〕

日本のような湯船につかるお風呂はフィリピンにはなく、ポリバケツやタンクに貯めた水を手桶ですくって水浴びする「リーゴ」というスタイルが主である。水浴びの場所が屋外にあることもあり、その場合は服を着たまま水浴びする。マラサルテ村では、村人ほとんどが外リーゴだったので、女子メンバーもかまわず外で水浴びをしていた。また、夜に水浴びすると冷えて風邪をひきやすいため、朝・昼に行った。石鹸やシャンプーは村の近くでも、安く購入できた。

※ワーク後は身体が熱をもっているため、1～2時間おいて水浴びすること（熱を持った状態で水をかぶるのはよくないらしい）。

〔洗濯〕

もちろん洗濯機はないので、タライに水を貯め、粉末洗剤で手洗いをして汚れを落とした。日本人は手洗いに慣れていないため現地人から常に指導された（笑）洗濯の方法-1回ゆすぎ、1回洗い、3回すすぎ。干すときは家の周りのロープや柵に干していた。今回雨が多かったので室内干ししていたため乾きが悪く、生乾きの臭いがするなど大変だった。



〔トイレ〕

便座が無いことが多く、低くて小さい洋式便器のような形のものが主流だった。用を足したあとはポリバケツに貯めた水を手桶ですくって流す様式で、日本と違って紙は流せないため、ゴミ袋を持って行き、ゴミとして捨てていた。うまく流しきれないこともしばしばあるので大をするときは要注意！

〔買い物〕

マラサルテ村からは「ハバル」と呼ばれる中型バイクで30分くらいのところにマタグオブ市の市場があり、食料品・衣料品・薬・文房具など生活に必要なものはほとんどそこで調達することができた。また、村の中には「サリサリ」という小さな個人商店があり、お菓子や、お酒などのちょっとした買い物をすることもできた。村からバスで1時間半ほどのところにあるオルモックという大きな港町では、村の近くではできない買い物やペソへの換金などもできた。



サリサリ

[交通]

通常、近距離の場合には「ハバル」や、「トライシクル」と呼ばれる荷台付き中型バイクに3～5人程度乗って移動する。オルモックなど遠くに行く場合は村の近くから出ているバスを使う。マラサルテ村の場合は特殊で、市場までが遠いためハバルも行きたくないし、運賃も高いため村の「モルティカブ」と呼ばれる軽トラに乗せてもらい買い物に行っていた。また、パロンポンやオルモックにはそのモルティカブか村人にバスの運転手がいたのでそのバスで移動した。村にバスの運転手がいると非常に便利！その他、空港～セブシティ間はタクシーに乗り、セブ島～レイテ島間はフェリーに乗って行き来した。タクシーは高額な運賃をふっかけてくるドライバーもいるようなので、値段交渉をしっかりとした上で乗らないといけない。また、降りるときはトランクや車内に忘れものが無いか確認し、忘れ物などの場合連絡を取るために、出来るだけタクシーのナンバーを控えておく。

ハバル



トライシクル



モルティカブ

9. Tシャツ

今年も例年通り自分たちのキャンプTシャツを作った。

○Tシャツ作りの流れ

- ① 国内ミーティングでみんなから案を出してもらい、話し合っでデザインを決める。
- ② 着いてすぐオルモックの印刷屋へ行き、デザインを渡して印刷の依頼をする。
- ③ 一週間後、本隊到着時にオルモックでTシャツを買い、印刷屋に渡す。
- ④ それから約一週間後に印刷屋に完成したTシャツを取りに行き、お金を支払う。

今回、Tシャツ代は1枚95ペソ、印刷代は1枚150ペソだった。

*印刷屋は期限を守らないことがあると聞いていたが、今回はちゃんと期限を守って仕事をしてきていた。しかし、しっかりと次にいつ来るのか、いつまでに完成させてほしいのかをちゃんと伝えておかないといけな。そしてデザインについても、色や大きさを明確に説明しておくべきであると感じた。

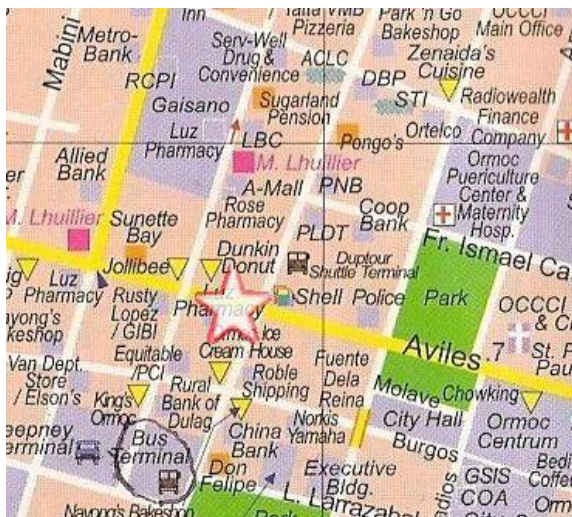
表：むっきーデザイン



裏：ふーかデザイン



オルモックの印刷屋の場所↓



ロクロクさん、マヌエルさん、国内
係のゆきなもキャンパーみんなとお
揃いのTシャツ★



10. 他己紹介

◇ゆき◇



ゆき・・・ほんとにキャンプお疲れ様でした^^
一緒に3回もフィリピンに行ったねー。今回はリーダーとしてみんなを引っ張っていってくれて、ゆきだから18人という大所帯をまとめられたと思うよ！リーダーだからって内にこもらず、現地人と遊びすぎてカピタンに怒られてたのゆきとたかしだったよね(笑)
またフィリピン一緒に行こー♪うちの family はフィリピンで待ってるよ*:D Daghang Salamat♥

FROM♡あっこ

◇あっこ◇



あっこは、頼れる姉さんの存在です。あっこの安定感はんばないです♪私もキャンプ中は、あっこに頼りっぱなしでした！某キャンパーも「姉さん！」って呼んでたしね☆私も「姉さん」って呼ばせてください。(笑)そしてあっこの名物自己紹介「Ako si Ako!」が大好きです♥これを聞いたフィリピン男子はイチコロだった…はず！
我らが誇る、最強のモテ子ですから！！
また一緒にマラサルテに帰ろうね！！

FROM♡ちゃん

◆たかし◆



たかし=トゥバ。キャンパー1、フィリピンに馴染んでいたと思われれます。一体彼が日本人なのかフィリピン人なのか私にはもうわかりません。ちなみにゆうかファンクラブの会員らしいです。それと、世の中の女の子がみんなショートヘアになればいいときっと思っています。こんなたかしですが…(笑)頼れるワークリーダーでした！今回のワークが無事終わったのもたかしの努力のおかげでしょう！！ワークリーダーおつかれさま！Salamat\(^o^)/

FROM♡まさえ

◆だいき◆



だいきは関西人です。インドネシアまで虫採りに行ったり、結構な変わり者やけど(笑)意外としっかりしてて常識人。な気がする。ド
ラマーで、現地の人たちとセッションしてた姿はよいと思います！
最後の最後にパラホボックになってみんなに迷惑かけてたけど笑。
そんなだいきは見た目の割に(笑)子供好きで、子供に大人気でした！

FROM♡りま

◆かーりー◆



かーりーといえば、記録係！いつもカメラを持って、キャンパーの
頑張る姿も、楽しそうな姿もたくさん撮ってくれました。かーりー
は村人からの人気もあって、特に男の子から人気があったよね(笑)
ダヤンからは sister と呼ばれていたり…どうやらかーりーには不
思議な魅力があるようです！笑 ディスコの時も村人に囲まれて踊
るかーりーはとっても楽しそうでした(^o^)買い物に行ったときは
真面目な話をたくさんしたけど、フィリピン生活はかーりーにとっ
て素敵なものになったのではないかと思います！

FROM♡ふうか

◇ちゃん◇



ゆかちゃんは自称肉食系です。プリクラにはそう書いてあります。
ゆかちゃんはもも組出身です。みおさんが幼なじみです。ゆかちゃ
んはお腹が弱いです。大体エゲです。知らないですけど。ゆかちゃ
んはパン屋でバイトしてます。名前「イシザキパン」です。勝手に
そう呼んでます。店長さんは試作をくれる良い人です。
ゆかちゃんは僕が好きです。嘘です。僕がゆかちゃんが好きです。
みんながゆかちゃん大好きです。

FROM♡りょうへい

◇いっこ◇



いっこは近所のデキるお姉さま的存在!!全体を見ることができて、率先して行動する姿には助けられた。イベント係としても、去年のゆきと俺なんかを遙かに上回るクオリティーをありがとうwww エゲで悶絶してる姿もスキだけど、やっぱり安らかに眠ってるときのいっこの寝顔が1番スキ★ また近いうちにマラサルテ、そしてプロパーに帰ろ!!
sonde BRGY ホールか、我が家の庭でまたホボックになる!!
プロパー万歳♪

FROM♥たかし

◇りま◇



りまちゃん是一言で紹介するなら、素直で優しい子。こんな僕(松本)にも構ってくれて、オジさんとしては嬉しかったぞ(泣 そんなりまちゃんは少林拳法の使い手。試しに殴らせたら鳩尾に Hit!!悶絶してしまったのは言うまでもない。っと、このままではただの格闘ガールという印象になってしまう。でも本当に良い子。ホームステイ先が隣の家だったので、ちょいちょい遊びに行っておバカ話にも夜中まで付き合ってくれたり。キャンプには欠かせない存在でした。

FROM♥まつじゅん

◇みほ◇



みほちゃんは見ただ目、清楚なお嬢様!そして日本美人!絶対フィリピンの山奥とかで生きていけんやろ!ってイメージだったけど、かなり楽しそうに生活してました♪でもやっぱりみほちゃんはジャージで首に白タオルでも美しい!ムオンをはじめ、たくさんのフィリピン人を虜にしちゃいました♪だがしかしそれを拒否するみほちゃんはおもしろかった(笑)。

英語もできて、すごく気がきく優しいみほちゃん。そして泳ぐの大好き、食べるの大好き、踊るの大好き、お酒大好きなみほちゃん!

酔ってまぶただけ真っ赤になるみほちゃんがみんな大好き!最後に…みーほっパホ♪

FROM♥ゆうか

◇えりかろ◇



えりかろは天然モテバスケ少女！ふわふわ〜としたオーラで子どもにも若者にも大人気(*^_^*)疑問に思ったことはすぐに誰かに聞いて解決しているところもMTGの時から見えました♥(^)/積極的に村人に話しかけたり、名前を聞いて覚えていたり、村の若者とバスケをしたり、本隊で村に到着してからすぐにたくさんの人の心をつかむえりかろ、ステキです！

FROM♡みお

◇むっきー◇



いつもニコニコな元気印の“ムイムイ”：D一緒にいると元気をもらえました(*^_^*)村の男の子やクヤ達と楽しそうにバスケしてた姿が印象的！むっきーはいつも「バスケしたーい！」って言ってた気がする…笑。ジャパフェスの時の大縄もすごく楽しそうにやってたね！ワークの時には、重たいサック運んだり自分から進んで仕事探してたくさんの仕事をこなしてたむっきーを、すごいなーと思いながら見てました☺

一緒にキャンプ行けてほんと楽しかったよ！Daghan Salamat!!

FROM♡はるか

◇みお◇



みおは会計係でした！共同生活期間はMTGの後、だいきと一緒に毎日お金を数えていました。わたしはよくそれを邪魔しにいきました。そんなめんどくさいわたしを「お前めんどくさいー」って言いながら、いつもかまってくれました。体調壊して祈祷師さんにお世話になったこともあったけど、いつも元気にワークに励んでいました！うん、みおと一緒にフィリピン行って楽しかった！！

FROM♡むっきー

◇ふうか◇



フィリピンでのふうかちゃんといえば、、、常にお酒を求めてた！笑
Tuba も喜んで飲みます！笑 私の中ではお酒大好きなふうかちゃん
だけど、ふうかちゃんの周りにはいつも子供達が集まって来てとっ
ても人気者♪一緒に子供達と遊んだのはいい思い出(^_^)♪
今回のフィリキャンTシャツもふうかちゃんのデザインで、英語も
出来て、ノリも良く、メンバー皆からも慕われているふうかちゃん
は完璧ガールだね☆また一緒にマラサルテ戻って子供達と遊んで
Tuba 飲みたいよ～♪

FROM♡みほ

◇ゆうか◇



ゆうかは頑張り屋で、賢くて、ほんわかしていて、どこでも眠れま
す(-.-)zzZ…ワークではいつも進んで仕事を見つけ、熱心に取り組
んでくれました。イベント係としては、ジャパフェスの準備を夜中
まで頑張ってくれたね。おかげで次の日のジャパフェスは本当に楽
しかった!!ステイ先では、子どもたちを弟&妹のように可愛がり、優
しく接していて、そんな様子に僕も和みました☆ゆうかの「Lami!!」
が好き(笑)。そしてゆうかファンクラブ、会員募集中!!

FROM♡かーりー

◆まつじゅん◆



きっかけはmail からでしたね^^関東から参加したいなんて…。最初
はとにかく胡散臭くて面倒で…ね?→これみんなの意見だから!!こ
のキャンプの不安要素第一位だったからね(^・ω・`)笑空港来た
ときはあまりのみんなとのテンションのギャップに本気で心配しま
した!そして自分絡むの面倒だったんでたかしに行かせました!笑←
激白注意!!そんな心配が解けたのはそう、紛れもなく前ワーク地を
訪問したあの日…。かけよってくる子供相手にプロレス始めた君の
輝く笑顔は未だ脳裏を離れません^^最年長、関東から単身乗り込んでくる行動力の持ち主
のくせにすごい頼りない困った奴ですが…今では大切な仲間の一員!!君に会えてよかった
♪笑

FROM♡ゆき

◇まさえ◇



まさえはわたしの可愛い可愛いホームステイ Sister★ 素直で優しいしっかり者！キャンパーや現地人とたちまち仲良くなっちゃう気さくさで、まさえの周りにはいつも笑顔がいっぱいでした♪そして、よくモテる（笑）体調壊した私を気遣って生活してくれて感謝でいっぱいです。このキャンプで何か視界が開けたみたいで…今後の活躍にも期待大！！

FROM♡いっこ

◇はるか◇



はるかは語学力に優れていまして、ビサヤ語はばっちりマスターしてます！！よね?? 「これなんだっけ？」って話になったときに真っ先に教えてくれるのがはるかです。それとそれと、歌が上手いんです。マイクなしでも声が通ります。現地のギタリスト（笑）のギターに合わせて歌う姿は毎日のように見られます。お別れパーティではステージの上で堂々と歌います。そんなはるかちゃん、ワークでは山登りが苦手なようで、危なっかしい足取りで一生懸命登っていました。つまりはがんばり屋さんってことです。これからも FI で頑張るはるかに期待！！どんどん盛り上げてこ~~~~う♪

FROM♡えりかろ

◆りょうへい◆



アイドンノウワッチュウセエイ！！
この台詞をマラサルテで広めたのは彼です。そうです。彼は英語が苦手なのです。いや、日本語も苦手です。けど、言葉なんて通じなくてもそのノリの良さでキャンパーにも村人にも愛されてたのはさすがりょーHey!!って感じ。スナックタイムナウ！！

FROM♡だいき

11. 感想

【ゆき】

1年前、リーダーになることを決意してから、私は村人と日本人をつなぐ架け橋となろうと思ってきた。国境、文化を超え、互いを慕い、家族のように大切に思い、気遣い合えるそんな人と人との「つながり」を築くことができることこそワークキャンプという国際協力の最大の強みであるというわたしなりの考えがあったからである。

だから、私自身何よりも村人との交流の時間を大切に、寝る間を惜しんで酒を飲み、歌を歌い、とても濃い1ヶ月を過ごした。キャンプ中、リーダーである私がこんなに楽しんでいていいのだろうか、もっとキャンパーみんなが楽しめるように気を配るべきなのではないかとも思った。しかし、ふと周りを見渡してみるとみんながそれぞれに村人と笑い合って、ふざけあっている姿があって心配も吹き飛んだ。

村人との別れの日、泣いて別れを惜しみ合うみんな…「また帰ってこいよ!」「また帰ってくるからね!」と言い合う村人とキャンパーの姿を見て、私の目標は達成されたことを実感した。帰国後1ヶ月が経つ今になってもキャンパーが顔を合わせれば出てくる言葉は「帰りたいね」の一言。1ヶ月前は全くの未知だったマラサルテ村だが、みんなの中でいまやそこは大切な家族や友人の住む第2の故郷ともいえるような場所に変化したのだろう。その度にこのキャンプの意義を実感し、喜びをかみしめている。

こうやってこのフィリピンキャンプは続いていくのだなと思い、またFIの歴史に新たな一步を刻めたことをうれしく思う。残された私の仕事は、このキャンプを次につなげること。次のキャンパーを陰ながら支えていきたいと思う。

最後に、このキャンプを支えてくださったすべての人へ、本当にありがとうございました。

そして、下見、本キャンプあわせて18人の仲間たち、みんなに会えてほんとに良かった!!



【あっこ】

3度目のフィリピン・・・フィリピンの土地を踏みしめ、「帰ってキター!ただいま。」こんな気持ちを抱いた。今回のキャンプが終わって、フィリピンには約3ヶ月滞在したことになる。私を笑顔で迎えてくれる family や村人、きれいじゃないけど居心地のよい家、心癒してくれる空間がそこにはある。たった3ヶ月かもしれないが、私にとって第二の故郷と呼べる土地になった。これも、村人との交流を大事にするFIのキャンプだからこそ生まれた想いだなと感じる今日この頃。

3度目のフィリピン・・・私が3回もキャンプに参加できたのも初めて参加した去年の

本キャンプにある。初めてのキャンプに対する意気込みは、ただ楽しも一つ感じだった。でも、キャンプが終わってみるとなんかしこりが残った。もちろん充実した1ヶ月を過ごせたからこそ次のキャンプにも行くと考えたのだが、昨年行ったワークは完璧には終えられなかった事実がある。村に悪影響を与えたわけではないが、この結果は村人の心にどう残るんだろう。そう考えると、私たちの活動が果たしてよいものだろうかと疑問に感じてきた。私たちFIのキャパシティを超えての活動は、プロジェクトの失敗や一々互いにする危険性もはらんでいるのだ。

素直に、今回のワークは成功したと思える。すべて予定どおりにワークが終了したから言っているわけではない。みんなで作ったタンクにたまるきれいな水、水量が増しタンクから溢れ出る水、実際にその水を使ってラバ（洗濯）やリーゴ（風呂）をする村人の姿を自らの目で見られたからだ。長年苦しんでいたマラサルテにやっと・・・下見のとき5人で掲げた‘将来性’‘確実性’を目指したキャンプを村人、ロクロクさん、マニユエルさん、そして17人の仲間と共に築けたんだ、そう思うと涙が出てきた。自分が副リーダーとして関わってきたこのキャンプに誇りを感じる。



私は、このキャンプは「失敗から学んだ成功」だと思っている。昨年のキャンプに参加したゆき、たかし、あっこの経験から得た共通の思いが2011年のキャンプを動かしていく上での指標になり、新しい仲間に伝えたい思いになった。次の夏の下見キャンプに行くのは誰か分からないけれど、今回のキャンプから得たことは善し悪し問わずたくさんあるはずだ。今回得たこと大事にして、次のキャンパーらしきのあるキャンプを作ってほしいと心から願う。

下見キャンプの時から携わってきてくれた方、共にキャンプで頑張ってきたキャンパー、責任あるリーダーとしてみんなを支えてくれたゆき、本当にありがとうございました^^

【たかし】

去年の春から引き続き、フィリピンキャンプの参加は今回で3回目となった。夏キャンプ後、この春キャンプは村人の視点にたち、彼らのために何ができるかといったことを考えていた。多くの村人と交流する中で現状の村の問題点などをよく聞きまわった。それが今回の予定していたワークだけでなく、追加のワークにおいてもより平等性・ニーズを満たせた要因になったのではないかと考えている。ワークリーダーとしての仕事をいかにこなせるか、多少なりとも不安は感じていたが自分的には期待値以上のことができたのではないと思う。



フィリピンにおける普段の生活において感じたことは、やはり日本と違う時間の流れを感じるが多かった。日本においては、いま持っている時間をどれだけ有効に活用するかという点に重きをおいている反面、フィリピンではその時間をどのように楽しむかという点に非常に重点が置かれているように感じた。

またキャンプに3回参加し、そしてこれからも参加し続けていきたいと思えるワークキャンプというものの魅力を改めて確認できたキャンプでもあったと思う。無償のワークを共有する中で、宗教・人種・言葉なんてものを軽々とこえ、本当の意味での深い交流が築くことができる。他の活動では現地の住民とこれだけ深い関わりをもつことができるだろうか。これほど現地に密着し、深い交流がつかれるワークキャンプってやっぱりすごい熱いと思う。これからも何かしらの形でこの活動を続けていきたいと思う。

最後に、今キャンプを成功するにあたって協力、助言をしていただいた多くの方々に感謝したい。みんな本当にありがとう。

【だいき】

帰国して我が家に帰り、台所の蛇口をひねった。水が出た。

3カ月滞納していた水道代——。振込書を見送りに来てくれたみっちーに託して正解だった。……とまあ、こんな感じで慌ただしく日本を発ちマラサルテへ。去年の下見で入った（カラバオウ事件のあった）あの山を、今度は裸足で歩くことになるとは思ってもみなかった。足の裏が傷だらけになり、保健係には迷惑をかけたかもしれないが、「山に入る時は長袖長ズボン…」という日本での煩わしい固定観念を捨て、マラサルテの村人たちと同じような格好で山を歩くことがなんだか快感だった。砂や石の入った袋を頭に乗せて運んだり、村人に見られながら外でリーゴしたり、そこらへんの木からフルーツをもぎ取ってきたり。彼らと同じようなことをすることでもっと分かりあえる気がしたのかもしれないし、彼らと同じ目線でものごとを捉えようとしていたのかもしれないし、もしくはただ単にそういう営みが好きだっただけなのかもしれない。



なぜ参加したかなんて、恥ずかしながら熱く語れるほどしっかりした理由はない。けど参加した理由なんかより、実際にどんなことをしたかの方がはるかに大事……最終日に村人が流してくれた涙が——諸事情によりほとんど見ることはできなかったけど——そう教えてくれた気がする。Water systemの修復という形で村に影響を与え、それを通してFIが村人の心に入り込めたのがとても嬉しかった。交流を大事にするFIだからこそできたこと。村人やホストファミリーとの間に生まれた絆は一生の宝だ。

MTGからキャンプを作り上げてきた皆、出発日に「マラサルテって何？」ってあり得んことを聞いてきた関東（神奈川）人、そしてサントロでの経験を活かしてキャンプを成功へ

と導いてくれた、あこ、ゆき、たかし。ありがとうって何回言っても足らんくらい、ほんまのほんまにありがとう！！メンバーみんな大好きや！！ Daghang salamat!!

【カーリー】

「途上国という国が一体どのようなところなのか、自分の目で確かめたい——。」僕がこのキャンプに参加する一番の理由はこれだった。国際協力に興味があった僕は、学生のうちに自分の足でいわゆる途上国と呼ばれている国に行き、そこでの人々の暮らしはどうか、日本とは何が違うのか、国際協力とは何なのか、自分の目で見て考えたい…そう強く思っていた。ある日、たまたまフィリキャン募集の告知を目にし、迷わず参加を決意。このような経緯もあってか、「村のため」というより「自分のため」にフィリピンに行く…そんな思いが強かった。

僕は村の状況を事前に詳しく把握していたわけではなかった。遠い国から、見ず知らずの外国人が18人、山奥の村に1カ月間居候する…僕らは村人からどういう目で見られるのだろうか？僕らが村でワークを行うことに、理解を示してもらえるのだろうか？そのことが不安で仕方なかった。しかし村人は、僕らを心からの優しきで迎え入れ、もてなしてくれた。ともに酒を飲み、歌い、笑い、泣き…。困った時はいつも手を差し伸べてくれた。常に人と人との絆を大切にし、僕らの心に寄り添ってくれる、そんな彼らの姿がそこにはあった。気がつけば、僕らは彼らに助けられてばかり。この人たちのためにも、僕らはここに確かなものを残していくんだ…そんなことを、ただ漠然と考え始めていた。

「誰かのために——。」僕には今まで、そんな経験はほとんどなかった。周りのこともよく見えず、自分のことで精一杯…そんな毎日。しかし、村人の温もり、おおらかさ、絆、キャンパー一人一人がそれぞれの汗を流し、ワークに打ち込む姿…このキャンプで見て感じたあらゆるものが、僕の心を揺さぶった。うまく言い表すことはできないけれど、日々たくさんの感情が渦巻いた、そんな1カ月間だった。



村人、ロクロクさん、マニユエルさん、ムニシパルの方々、ダディ夫妻、なみさん、サリーさん、ジャンボさん、げんきさん、みれいさん、17人のキャンパーと国内係のゆきな。たった一度きりのメンバーとともに歩みを進めていった、あの1カ月間。そこから自分が得たものって何だろう？思うことが多すぎて言葉にできないのが正直なところだが、一つだけ言えることがある。それは、「ワークキャンプを行うことの意味、ワークキャンプという活動が秘める可能性とは何か？」という問いが、いま自分の中で始まろうとしている、ということ。

この問いの答えを、これから探してみようと思う。

【ちゃん】

私にとって、このフィリピンキャンプは初めての経験だらけだった。フィリピンという国、一か月親元から離れ共同生活、そしてホームステイ…全てが初めての経験で、不安がなかったかと言えば嘘になる。いや、むしろ出発前は不安しかなかった。ワークはやはり大変と聞いていたし、自分が行くことで足を引っ張るのではないかなど、不安は尽きなかった。しかし、いざマラサルテでの生活が始まると、本当に楽しくて出発前の不安なんて忘れてしまった。そうやって楽しく生活が送れ、体力的にもきつかったワークすら楽しかったと思えたのは、マラサルテの人たちとキャンパーがいたからだ。いつでもマラサルテの人たちは私たちキャンパーを気遣ってくれた。私たちを家族の一員として迎えてくれた。「ありがとう」なんて言葉では言い表せられないほど心から感謝している。それはキャンパーやキャンプに参加する機会を与えてくれたFIWCという団体にも。この18人でマラサルテに來られて本当に本当によかった。みんな、ありがとう！



そして、キャンプ中はもちろん、マラサルテを離れるときに思ったことは「このキャンプ一回きりにしたくない！」ということ。だから、私はこれから先もマラサルテに帰り続けたい。このキャンプ一回で終わらせたくないと思えたキャンプだった。私にとってこのキャンプは未完成。もっとマラサルテやマラサルテの人たちのこと、フィリピンを知りたいし、これから先ずっと関わっていきたくと思った。「ただいまー！」って言える日が楽しみだ。

【いっこ】

フィリピンから帰国して二週間、このキャンプは何だったかを考えてみると、一番に思いつくのは『人々との出会い』だった。現地に到着してまず印象的だったのは、現地の不便さや日本とは異なる暮らしへの不安ではなくて、マラサルテの人々の生き生きとした表情だった。私にはマラサルテの人々の皆が幸せそうに映って「ああ来てよかったな。」と感じた。マラサルテの人々は本当に素敵な人たちばかりだった。彼らは仲間との繋がりの中で生きている。彼らは仲間を楽しませるため、助けるため、いつも人を想って行動し、その中で自分も幸せを感じているように思った。日本で生活していると、経済面や生活面では自立が可能なために一人で生きていけるような感覚になってしまう。そして周りの人々を思いやることを忘れて、孤独を感じるようになってしまう。マラサルテの人々は一人では生きていけない環境だからこそ、周りの人々を愛して思い遣る心が身に付いているのかなと考えた。彼らと過ごした一か月で私にもそ



んな心が身に付いていれば嬉しい。国境は関係なく、人間が幸せになる方法は同じなのだと心から感じた一ヶ月だった。また、このキャンプは私が一方的に得るものばかりだった。ワークは指示された仕事をしただけ、日々の生活もキャンパーとして決まりを守って生活しただけ。積極的に周りに働きかけて巻き込んで、毎日の中で現地人とキャンパーともっと濃いキャンプを作りあげていけばよかったと反省している。この反省は今後の FIWC での活動を含め、日々の暮らしの中に活かしていきたい。

【りま】

フィリピンでの1ヶ月は今までまったく経験したことのない1ヶ月になった。

見たことのない乗り物に乗ったり、お風呂が水浴びだったり、聞いたこともないフルーツを食べたり、新しいことの連続だった。特に嬉しかったのが、現地の人と仲良くなれたこと。何度か海外に行ったことはあったけど、こんなに現地の人と仲良くなったことはなかった。現地の人たちはほんとにあったかくて、何でそこまでしてくれるんだろうって思うくらい優しくかった。ワーク中は役立たずで、現地の人に助けてもらってばかりだったけど、すごく楽しかった。



ホームステイが始まってから妹と弟ができて、私は一人っ子だから「アテ」って呼ばれるのがすごく嬉しかった。ちょっと元気すぎる子供たちやったけど。笑 ナナイもタイも優しく面白くて、本当の家族みたいに接してくれた。

MTG で初めて会った人たちとフィリピンに行って、共同生活してってすごいと思う。何日も一緒に生活して、よく考えたらアドレスも知らないよねって話した時は笑えた！自分と同じことに興味を持った人たちと出会えてほんとに嬉しい！みんなどうもありがとう(^ ^)楽しかった！

【みほ】

私がフィリピンキャンプのことを知ったのは大学に入ったばかりの頃。最初の合同説明会で話を聞いた時に絶対行きたい！と思ったのを今でも鮮明に覚えています。その後もゆきちゃんと一緒に説明会に参加したりしていくうちに行きたい気持ちが強くなる一方、両親からの反対を受け、1年の頃は断念。それからの1年間はフィリキャンに参加するのが私の1つの夢でした。



実際にフィリキャンに参加した1ヶ月は本当に幸せな時間でした。毎日子供達の笑顔に囲まれ、メンバーや現地の人々とワークの完成という1つの目的を共有し、フィリピンの文化に触れ、人の優しさを感じ…。言葉では表しにくいけど、とにかく満たされた生活で

した。最初は環境に適応出来るかどうか不安もあったけど、自分が意外とたくましい？ことにも気付きました。笑

確かに日本のような便利さはないけれど、フィリピンには日本には欠けているものがたくさんあって、そのことを感じれたのは私にとって大きな変化です。

またフィリピンに戻りたい(><)！

【えりかる】

一言で言ったら、楽しかった！この一言に尽きます。自然体で現地人と接して、日本の家族や友達と同じように大好きになって、毎日毎日楽しく過ごせたと、満喫した!!って胸を張って言える。そしてここでは書ききれないほど、真面目に考えたこともたくさんあった。それはまだ完璧な考えじゃないし、ここでは省略させていただきます。

まずは空港近くの宿での一夜…タクシードライバーさん達と飲んだ(笑) みんなすごく優しくってファンキーで。日本人はやさしい、韓国人はどうとか中国人はどうとか言っていて、日本人に好意を持ってくれてることがすごく嬉しかった。

マラサルテ村に着いてからも、たくさんの現地人と遊んだ。15~18歳が多くて、みんな英語が話せる(+_+)！ここで日本の英語教育の不備を実感。しかし！バスケットに国境はないのだ。現地ではバスケットが盛んで、至る所に手作りのリングがある。大好きなむっきーと一緒に毎日バスケットに励んだ。毎日が本当に楽しかった。

ホームステイでもむっきーと一緒にだったわけだけど、Bongbongファミリーのパパはなんと村の貴重な交通手段であるLibertyバスのドライバー☆!!いろんなところに連れて行ってもらった。パロンポンへの道中、戦地になったところ(?)を通った。パパが「フィリピン人と日本人は昔は敵だったけど今は友達だ」って言ってくれたのがすごくじーんときた。



一緒にワークを頑張った時間も、バスケットした時間も、ひたすら手遊びをした時間も、トゥバ飲みながら騒いだ時間も、ぜんぶぜんぶ素敵な大事な思い出です。日本人のキャンプも手伝ってくれた現地人もみんな大好きだあああああ!!!

【むっきー】

わたしがキャンプに参加した理由は「大学生活でしかできないことを経験したい」という思いからでした。実際に、キャンプに参加して1週間は新鮮なことばかりでやっていけるか不安なときもあったけれど、毎日がとても充実していました。フィリピンでの生活に慣れてくると、自分がなんのためにフィリピンまで来たのか分からなくなり、ワークで力になれなかったり、英語が喋れず言いたいことも伝えられない自分にモヤモヤする気持ちを抱いたこともありました。でも、今回のキャンプで自分の力不足を実感できただけでも、

大きな勉強になったと思います！また、キャンプに参加してから自分の日々の当たり前だったものの価値に気づき、勉強や家族、友達を大事にしなければならぬと思うようになりました。

最近では写真を見たり、フィリピンで耳にした歌を聞いたり、キャンパーに会ったときなどふとしたときにマラサルテに行きたくなります。次、マラサルテに行くときは語学もバスケも知識も成長していきたいです！！心からキャンプに参加して良かったと思います！！



【みお】

このキャンプに参加した理由は、「フィリピンに行ってみたい」「フィリピンに行く機会なんてこんな時しかないだろう」というのが一番強かったのもので、初めてMTGに参加したとき話の内容にもついて行けず他の人たちと温度差を感じていました。

MTGにもろくに参加できずに出発直前になり、「やっぱり1カ月って長いなー」と感じたりして何となく気分が沈んでいました。

そんなわたしでもフィリピンに行ってから日本を恋しく感じるものがほとんどなかったくらい毎日楽しくて、17人のキャンパーとも仲間になって、フィリピンに家族もできて、帰る日があんなに悲しい日になるなんて思ってもみませんでした。

「絶対また戻ってくるから！約束！」と村の人たちに言うなんて出発前の私からしたら予想できなかったことです。

今、わたしの顔はフィリピン焼けして足には虫刺されを思う存分搔いた跡があります。

その全部がフィリピンに行ったというわたしの思い出です(^)

こんな参加率の悪いわたしでも受け入れてくれた17人のみんなに感謝しています！ありがとう。



【ふうか】

F Iに関わり出して約1年後、ようやく念願のフィリピンキャンプに参加出来た。

最初にキャンプに行こうと決めたのは、1年前の春のフィリピンキャンプの報告会。キャンパー皆の顔がキラキラして、プレゼンの画面に映る写真、私からしたら見ず知らずの外国人の姿や写真集の一場面のような綺麗な景色に一喜一憂している皆を見て、ひどく羨ましくなって参加しようと思った。キャンプ報告をしているキャンパーの皆は私とほとんど歳が変わらないのに、その一ヶ月で色んなものを見て、色々なことを感じて、素敵で貴重な経験をしたのだと思った。きっとこの歳でしか味わえない、この歳だから味わえるのだと思ったし、こんな機会なんて滅多にない。そう参加の意思を固めたのは早かったの

に、いざ国内ミーティングが始まり、出発の日が近づくにつれて不安は増していった。私は、好き嫌いは多いし、ひどく気分屋だし、団体行動だってそんなに得意じゃない。実家がすごく好きだし、家族と離れて暮らしたこともない。たくさん悩むところはあったけれど、悩んでいたって時間は過ぎる。あつという間に出発、フィリピンでの生活がスタートしてしまった。

しかし、始まってみればすごく単純で簡単な毎日だった。早朝からお構いなしに聞こえてくる大音量の音楽と鶏の声で目覚め、スナックを食べてご飯を食べる。泥だらけになってワークをして、スナックを食べてご飯を食べる。空いた時間に洗濯や買い物、昼寝をして、スナックを食べてご飯を食べる。いつの間にか集まってきた村人やキャンパーたちと話したり遊んだりしながらスナックを食べてお酒を飲む。門限にぶつぶつ言いながら、帰って寝る。毎日よく食べてよく寝た。そんな毎日の繰り返し。繰り返しだったのに、飽きることはなく、毎晩明日を楽しみにして眠った。本当に多くの初めてを経験した。足場の悪い山で、ずるずるのどろどろになった。犬の喧嘩に巻き込まれそうになって泣きたかった。そこら辺でとれたココナッツとスターアップルが本当に美味しかった。今まで見たことのない素敵な風景も見た。雲のかかった山も、山の上から見る広い景色も、夜空の黒よりも多い星も、あの時あの場所あの空気じゃないと、もう同じものは見られないのだろうと思う。フィリピンでの生活は、私の心を豊かにしてくれたと思う。お金なんて毎日ほとんど使わずに、踊って歌って遊ぶ。それだけで満たされて、たくさん笑う。私はフィリピンで生活して、当たり前のことを喜べる、毎日を大事に出来る人間になろうと思った。そして、それを教えてくれた、たくさんの人に感謝したいなと心から思った。



最後に、この一ヶ月本当に皆ありがとう！皆だから、私は安心して生活出来たんだと思います（笑）大好きです！∩^ω^∩Salamat! P.S. りま！どや(° _ °)長くてくさいぞw

【ゆうか】

初めて参加したフィリピンキャンプ。出発前、何をしに行くのかと尋ねられたら海外ボランティアだと答えていた。しかし私の中には旅行気分のように楽しみで浮かれていた気持ちもあったし、ちゃんと事前の準備はしてキャンプに臨んだつもりだったが、キャンプについての知識や考えが十分ではなかったと今更ながらに痛感している。

実際に私がワークでしたことは土や道具を運んだり、セメントを混ぜたりといったこと。フィリピンにない技術や何か新しいことを伝えられるわけでもなく、むしろ技術を持っているのも、体力や運動能力があるのも私より現地の人々。キャンプの途中では「私がフィリピンに来る意味ってあるのかな・・・」「ボランティアっていっても必要なのはお金なんじゃないかな・・・」と考えてしまうこともあった。でもキャンプの後半は少し考えが

わった。確かにお金も必要としているかもしれない。しかし、もしお金だけがあってもウォーターシステムの改善など、村の生活の改善にはつながらなかったと思う。私たちFIが現地に行くことのひとつの大きな意味は村にきっかけを与えることではないかと考えた。やっぱり私たちが現地に行ってワークをすることには、絶対に意味があると思えた。

また、何よりもマラサルテの人たちが私達を大いに歓迎してくれて、たくさんの笑顔に出会えて、私はフィリピンに来てよかったと思った！キャンプに参加した意味はあったと感じられた！このフィリピンキャンプが私にとってプラスになったことは間違いない。ただの良い思い出で終わらせちゃいけないなって思うけど、やっぱり人生で二度とない！って思えるぐらい素敵な思い出だし、マラサルテの人たちにとってもそうであってほしい。マラサルテの私の家族、マラサルテで出会った人々、一緒に行った17人のフィリキャンメンバーに本当に感謝してます！またみんなでマラサルテに帰りたい！！



【まつじゅん】

長い浪人生活が終わり、新しい生活も幕を開け、大学生として落ち着いた春休みを過ごすはずだった2011年。人生初の”トゥバ”を飲んだ。ただ普通の学生生活を送りたいだけなのに。”トゥバ”を一気飲みした。何なんだ？一体どうしたんだ？俺。「このマズさがたまらないやろ〜」隆の意味不明なセリフに若干の殺意を抱いた。強引に飲ませた村人がニヤニヤしながら僕に言った。「ようこそマラサルテへ」

腹痛の中、何度かワークに強行参加するもトイレに逆戻り。ワークの汚れで着替えたTシャツの山に、一ヶ月の思いが募る。夜に冷や汗まみれで横になる僕と、その横でいつまでも話しかけてくる隆。ホームステイで2週間も一緒に暮らした。「だからさ、今夜だけは飲もうや」そんな言葉で腹痛が治まるはずもない。ホームステイ1日目で、真っ暗な部屋に1人取り残されたのだ。僕は後ろ髪を引かれる思いで寝袋に籠った。



朝起きると、隆はアルビン（ホームステイ先の子供）と添い寝していた。思わずiPhoneで連写した。夢のような4週間が流れた。

朝から晩まで降り続けた雨が村全てを白くした最終週。「もう帰ってしまうのか」村人の言葉に、胸が詰まる。「僕達は君のことを忘れないよ。」ただそう言い続けることしか出来なかった、フェアウェルパーティー。無力さを感じながらも、毎日のワークをがむしやりに頑張った。

2011年2月22日、すべてはここからはじまった。

大荷物を抱え、集合時間に遅れた僕。それを意味不明にビンタで迎えてくれたジャンボさん。手続きカウンターで僕を待っていてくれた、“あっこ”と“だいき”。そして、搭乗口で何とも微妙な出会いをした先発隊。何故か迎えに行った時、僕を村人と勘違いした本隊メンバー。

「今回が最後かもしれない」福岡空港で、そう覚悟を決めて臨んだフィリピンキャンプ。「最後に何かなるわけないだろ！」帰国後にそう思えた。確かにマラサルテ村には、最高のキャンプが行われた。

行きは独りだった。帰りは17人のかけがえの無い宝物が一緒だった。

あの出発の日から2ヶ月。ただぼんやりと思い出すこしか出来なくなった。キャンプはキャンパー1人で成立するんじゃない。腹痛で倒れそうになったとき良く分かった。僕はキャンパーと村人皆に支えられていた。

帰国を迎えた日、僕は皆に魅せられた。やっぱり書いてるだけじゃ伝わらない。来年も行ってみるか。お互いに色々あった4週間ですが、別れの言葉は言えませんでした。

君たちが世界で1番輝きを放つキャンプにいたことを。そこに立ち続ける、メンバーが今もいることを。

だから僕たちはキャンプに行き続ける。

つぎの春休みも。

【まさえ】

「何か大学生にしかできないようなことをしたい！」
そう思って私はこのキャンプに参加した。キャンプ前のMTGでは人見知りのせいでもなかなか馴染めず(笑)若干憂鬱だったけど、2月28日に出発して3週間このフィリピンキャンプは私には十分すぎるぐらい濃くて楽しくて充実したキャンプだった。



ワークは正直キツイときもあった。しかしその分、新しいタンクが完成して自分たちの名前を刻んだときの感動は大きかった。少ししか役に立てなかったけど少しでもこのプロジェクトに関わることができたこと、そして新しいオープンタンクを使っている村人の姿を見て嬉しくなった。

日本と比べたら不便すぎる生活。でも日本では決して気づくことのなかった人と人との繋がり、心の温かさを肌で感じることができ、フィリピンでの生活が大好きだった。国籍、宗教、言語、育った環境なんて関係ない。村人は私たちにいつでも温かかった。帰国する朝には、日本人もフィリピン人もみんなが別れを惜しみ、涙を流した。私はこのキャンプに参加して本当によかったと思った。

あっと言う間に過ぎてしまった3週間。そして帰国し思い出話を家族にしていた時、私はワークについて何も理解していなかったことに気がついた。“ワーク”を目的としてマラ

サルテに行ったのにワークのことを上手く説明できなかった。そのことが悔しくて、“楽しかった3週間”で終わっていた自分が恥ずかしかった。楽しかったワークキャンプ。でもFIのフィリピンキャンプをただの“楽しいワークキャンプ”で終わらせたくないし、終わらせてはいけない。ワークキャンプ、国際協力とは一体何なのかもっと知りたくなった。だから私はこのワークキャンプを自分にとってのスタートにしたいと思う。

【はるか】

私にとって初めての海外、初めてのキャンプだったフィリピンでのこの1カ月は本当に有意義で充実したものだった。初めは日本とは全く異なる文化や慣習（食べもの、お風呂、交通ルールなどなど…）に圧倒されっぱなしだったが、村に着くころにはフィリピンのことが大好きになっていた。村人は皆親切で、洗濯を手伝ってくれたり、風呂を貸してくれたり、歩いていると「ご飯食べていきなさい」と呼びとめられたり…日本ではありえないことがここでは当たり前だった。ステイ先の家族も私たちが本当の娘であるかのように接してくれた。タイとナナイに日本語を教えたり、ステイ先のブラザーに折り紙を折ってあげたりしたことは本当にいい思い出である。

いちばん印象に残っているのは歌を歌ったこと。共同生活していた家、サリサリの店先、チャーチ…機会があるごとにゆきや、フィリピンの“お兄ちゃん”Wingのギターにあわせて歌った。言葉が違っても、話さなくても、音楽があるだけでつながれる感じがして、すごく楽しかったし、嬉しかった。村で習い、チャーチのミサでも歌わせてもらった曲、“Deeply in love”をFarewell Partyのとき皆の前で歌ったことは忘れられない。村で過ごした1カ月で、私は村の人たちからたくさんの優しさと、大切な思い出をもらった。日本がいかにか恵まれた国なのか、当たり前のように大学に通えている自分がどんなに幸せなのかということにも気付かされた。一方で技術も体力もなくワークでは足手まといになることも多々あった私が、村人に対して何かできたのかと言われると自信が持てない。ただ、帰国が近づくにしたがって別れを惜しんでくれたたくさんの村人を見て、私も村人にとって大切な存在になれていたんだと感ずることができた。マラサルテの人たちと日本人とフィリピン人という枠をこえた、「友達、家族」としての関係を築くことができたことが私にとってこのキャンプでの最も大きな収穫だったと思う。



最後に、こんなに楽しい1カ月を過ごすことができたのはキャンパーのみんな、マラサルテのみんな、そしてこのキャンプに参加することを許してくれた日本の家族のおかげです。本当にありがとう(^)Daghan Salamat!!

【りょうへい】

自分が FI に出会ったのは桜が舞う 4 月のことでした。説明会と新歓には行ったものの、フィリピンキャンプに本格的に参加したかねは 11 月のことでした。1 回目のミーティングが終わり、キャンプに参加する旨を伝えてから、ゆきさんやあこさん、そして隆さんには色々迷惑をお掛けしたと思います。しかし、ギリギリになって今回参加することができました。この場でお礼申し上げます。そんな苦難を乗り越え参加できたフィリピンキャンプ。本当に楽しかったです。

大げさかもしれませんが、日常生活で起きた全てのことがとても楽しかった気がします。自分の英語能力の無さに驚きでしたが、外国人とは言葉のみで通じるのでは無いことにもっと驚きました。英語がお互い喋れない 村人と、まるで中学生のクラスメイトの様に遊んでいた気がします。

村人はみんな優しく、言葉が全然通じない自分の拙い英語にもしっかり耳を傾けてくれ、どうにもわからないときは “I don't know what you say.” なんて言い、笑って楽しんでいました。ボールとゴールがあれば例え言葉が通じなくとも、絆は深める事が出来ます。道を歩いている時、ふと呼ばれた先の家で酒を飲み交わしバカ騒ぎ。フィリピンで見るものは私にとって新鮮なものばかりでした。日本にはない物、文化、そして人。中でも一番自分に影響があったのは現地の子ども達のことでした。



最後に思うことは、キャンプを通じて自分を良い方向に成長させられたことです。この出会いに感謝したいと思います。皆さん、ありがとうございました！

